

2. 川西小学校区地域

2-1. 地域の概況

(1) 現況

当地域は町の東部に位置し、生駒山系より伸びる丘陵地と東部に広がる平野部によって形成されている地域で、東側には木津川が流れています。また、鉄道路線としてＪＲ学研都市線と近鉄京都線が通り、祝園駅、新祝園駅が設置され、道路では幹線道路として南北方向に八幡木津線（山手幹線）の整備が進められ、東西方向には枚方山城線が通っています。

ＪＲ祝園駅、近鉄新祝園駅の周辺では、住宅地及び商業業務施設などが市街地を形成しており、学研都市の玄関口と町の中心市街地にふさわしい土地利用が形成されています。

一方、市街化調整区域の平野部では、周辺の既存集落などとともにのどかな田園風景が広がっており、イチゴなどの観光農業も営まれています。



(2) 住民意向（平成 27 年 3 月の改定時に実施）

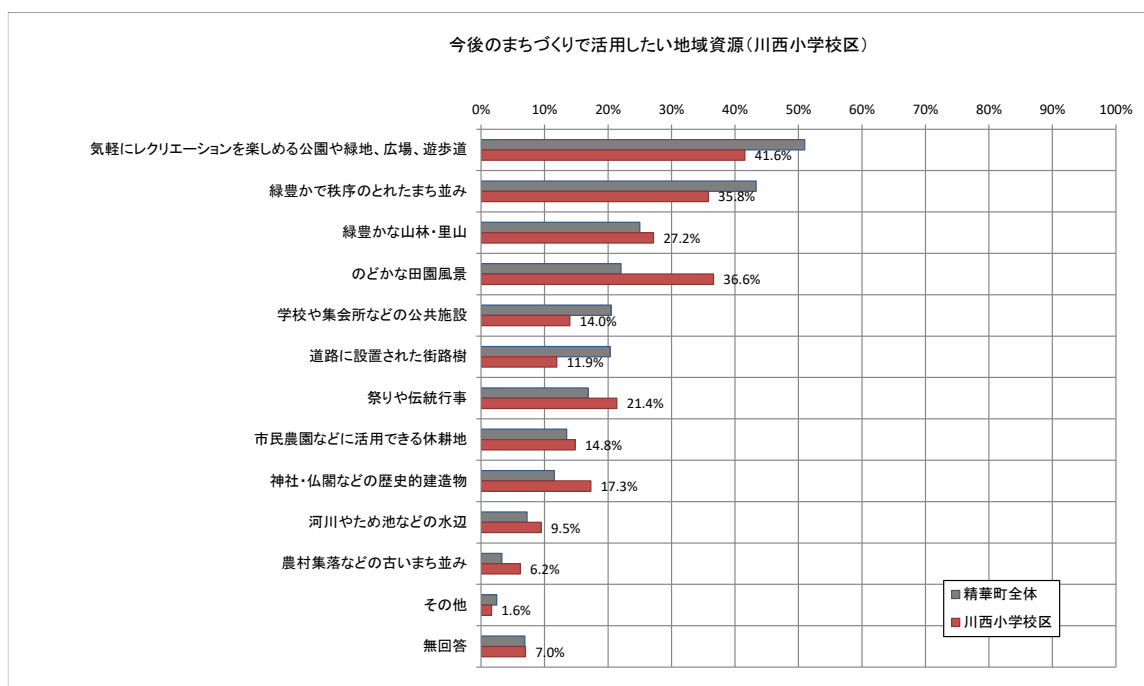
①まちづくりに関するアンケート調査

まちづくりに関するアンケート調査では次のような回答が得られています。

1) 今後のまちづくりで活用したい地域資源

○「気軽にレクリエーションを楽しめる公園や緑地、広場、遊歩道」（41.6%）を活用したまちづくりという意見が最も多く見られます。

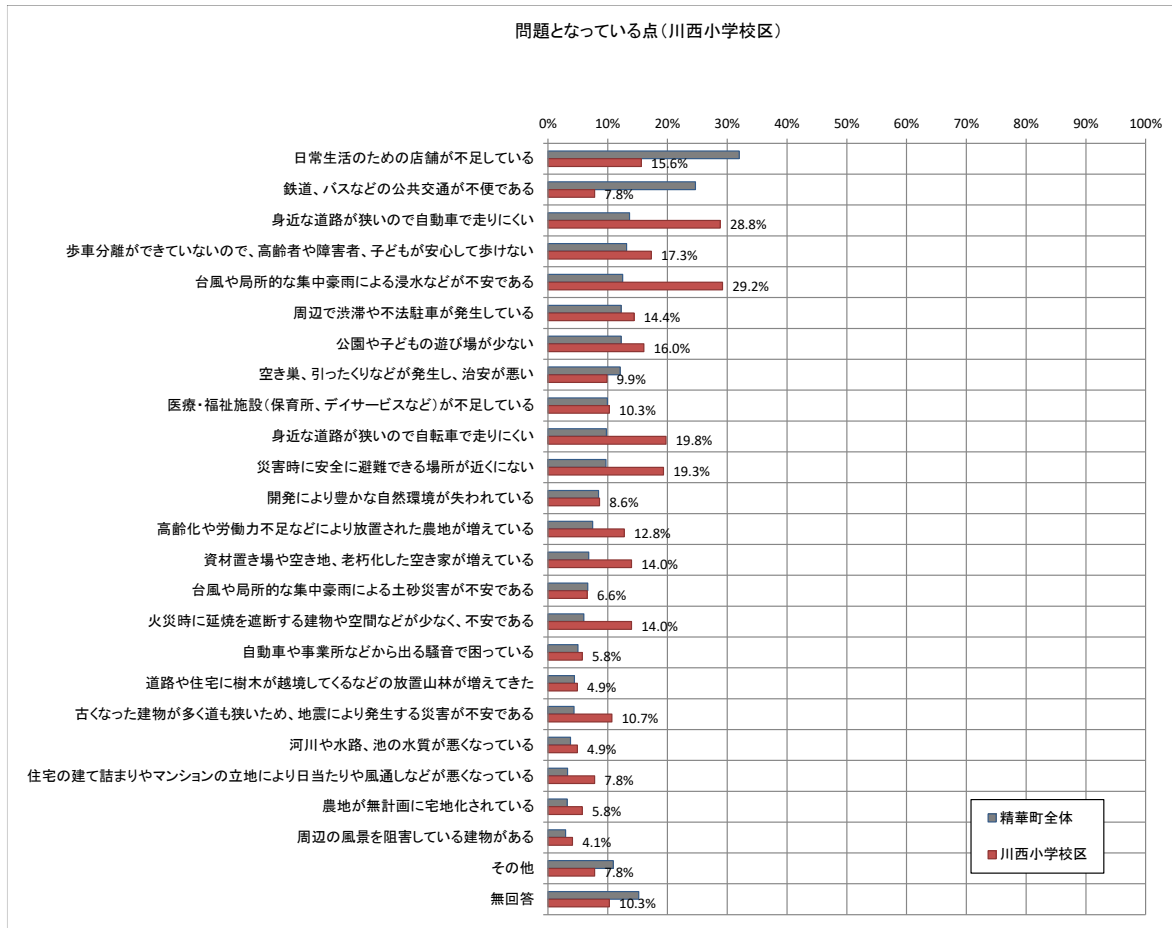
○他の地域と比べると、農地が多いこともあって、「のどかな田園風景」（36.6%）という意見も多く見られます。



注) 複数回答

2) 問題となっている点

○問題とされた項目は、「台風や局所的な集中豪雨による浸水などが不安である」(29.2%)、「身近な道路が狭いので自動車で走りにくい」(28.8%)などが挙がっています。



注) 複数回答

②ワークショップ

まち歩きワークショップでは地域の魅力として以下の項目が挙がりました。

●地域の魅力ベスト3

- ① 釈迦の池の景観
- ② 駅から役場までの道 (祝園東畑線 (中央通り線))
- ③ 堀池川の桜

2-2. 地域づくりの目標と基本方針

(1) 地域づくりの目標

全体構想と、川西小学校区地域の現況、住民意向を踏まえ、本地域の目標を次のように設定します。

- ①学研都市の玄関口にふさわしい賑わいと活気に満ちたまちの拠点づくり
- ②利便性と快適性の優れた住みやすいまちづくり
- ③美しい景観と豊かな歴史文化を活かしたまちづくり

(2) 地域づくりの基本方針

地域づくりの目標を実現するため、次の基本方針に基づいて地域づくりを進めます。

- ①学研の拠点とまちの拠点を結ぶ骨格的道路体系を形成するとともに、駅周辺において、商業業務施設などの集積を図りつつ、多様な都市活動が展開される空間と田園空間との調和のとれた土地利用形成を図ります。
- ②既成市街地は、交通の利便性が優れた住宅系として住環境改善を図ります。
- ③身近な農業を体験できる仕組みや地産地消の取組を進め、農業の活性化と健康な都市生活を創造します。
- ④丘陵部の斜面緑地、河川、平野部の農地、数多くの歴史文化資源などを住民との協働の取組により保全・活用を図ります。

2-3. 土地利用構想

- 駅周辺については、まちの拠点として本町の中心機能の充実を目指すとともに、学研都市の玄関口として、商業業務施設、買物、福祉など生活利便施設の誘導を図ります。
- 専用住宅を中心とする低層住宅系市街地については、周辺の住環境の保全に努めつつ、社会・経済情勢や住民ニーズの変化に伴う土地利用ルールの見直しについて、自治会などの検討・提案を踏まえるとともに、周辺環境との調和、敷地の細分化防止などの居住環境の確保及び地元意向などを勘案して検討します。
- 既成市街地や既存集落では、現状の住宅系の土地利用を基本として周辺の自然環境や歴史的なまち並みを守りながら、住環境の保全を図ります。
- 市街地に点在する宅地開発予定地については、周辺の住環境との調和を図ります。
- 土地利用検討地区の菅井・植田地区は、土地区画整理事業の実施による都市基盤整備とあわせて、山手幹線沿いの区域を町の活性化に資する商業業務系市街地とするなど、今後の土地需要の動向を考慮しながら、幅広く土地利用を検討します。また、生駒精華線（旧植田35号線）までの区域については、現在は市街化調整区域になっていますが、関係機関との協議・調整のもと、市街化区域への編入について調査・検討します。
- 打越台環境センター跡地においては、「防災センター及び防災受援施設の整備に向けた精華町ま

ちづくり基本計画」に沿った防災受援施設の整備にあたり、当地区は市街化調整区域であることを踏まえて、地区計画等を用いた土地利用を適切に検討します。

○農地の様々な機能を検討し、遊休農地の解消を行うことで、農地の保全に努めるとともに、多面的機能を保全する地域の農業組織を支援します。

○枚方山城線から西に望む丘陵部の緑は、既存集落の背景となる緑の景観として保全を図ります。

2-4. 都市施設

(1) 交通

○幹線道路である八幡木津線（山手幹線）の未整備区間については、菅井・植田地区土地区画整理事業の進捗とあわせた整備を促進するとともに、枚方山城線については、引き続き持続的な維持管理について関係機関と調整します。

○補助幹線道路である生駒精華線（旧植田35号線）から鉄道東側市街地へ至る道路整備について検討を図ります。

○祝園東畑線（中央通り線）、祝園砂子田線及び駅東西の駅前広場については、歩行者などの安全を確保するため、その機能の維持管理に努めます。

○駅周辺への利便性の向上及び交通安全対策を図るため、アクセス道路として南稲・北ノ堂線の整備を図ります。

○幅員が狭い生活道路や通学路については、整備計画の検討を行い、周辺住民の理解と協力を得ながら整備を図ります。

○住民の身近な移動手段であるバス路線の維持などの利用促進を図ります。

○JR祝園駅及び近鉄新祝園駅周辺地区では、精華町鉄道駅等バリアフリー基本構想に基づき、各施設管理者と連携し、計画的にバリアフリー化に取り組みます。

(2) 公園・緑地

○町全域を対象とする運動公園として整備された打越台グラウンドの適正な維持管理に努めます。

○ほうその運動公園と祝園駅西地区の3ヵ所の公園を街区公園として位置づけ、適正な維持管理に努めます。

○土地利用検討地区の菅井・植田地区については、市街地整備事業などによる都市基盤整備とあわせて、公園の整備を検討します。

(3) 下水道・河川

○下水道計画に基づき、既成市街地及び既存集落の污水管渠の整備を進めます。また、駅周辺など浸水被害が懸念される地区については、雨水路の整備を図ります。

○木津川については、自然環境の保全を図るとともに、散策路などの整備や住民の憩いの場の創出などを関係機関と調整します。

2－5．市街地整備

- 駅周辺では、本町の中心機能を担う拠点として、また学研都市の玄関口として今後も必要な都市機能の維持、誘導を図ります。
- ＪＲ祝園駅と近鉄新祝園駅に接する駅中地区では、祝園駅西地区とともに本町の中心機能を担う拠点にふさわしい土地利用を形成するため、市街地整備事業などの推進に努めます。
- 土地利用検討地区の菅井・植田地区については、計画的なまちづくりを行うため、関係者の合意を図りつつ、市街地整備事業などを進めます。また、八幡木津線（山手幹線）沿道については沿道型商業施設の誘導に向けて、土地利用ルールの見直しを検討します。

2－6．景観形成

- 地域の重要な景観資源である木津川などの河川空間の保全を関係機関と調整するとともに、堀池川や釈迦の池などの河川空間の保全を図ります。
- まち並みについては地区計画や景観法による景観計画策定などを検討しながら周辺地域と調和した建築物の誘導や敷地緑化を促進し、良好な景観の形成を図ります。
- 住民の協力により、丘陵地や農地の保全を図ります。

2－7．防災

- 災害時の円滑な避難活動や防災活動に必要な道路の整備、維持管理に努めるとともに、八幡木津線（山手幹線）や緊急輸送道路である京奈和自動車道、八幡木津線（一部区間菱田植田線含む）については、関係機関と引き続き持続的な維持管理について調整を図ります。
- 浸水被害の防止を図るため、雨水路の整備、祝園ポンプ場の維持管理に努めるとともに、関係機関と協力しながら防災事業の推進に努めます。
- 土砂災害の防止を図るため、土砂災害警戒区域などの周知及びその周辺における調査・パトロールの実施に努めます。また、市街化調整区域では原則として開発行為を禁止するなど、宅地造成などによる災害の防止に努めます。



図. 地域別構想図（川西小学校区地域）

